

第56回日本PTA東北ブロック研究大会 東青大会

期日：令和6年9月7日（土）・8日（日）
場所：青森県青森市・平内町 6会場

「子どもを感動させろ、子どもを感動させるにはおまえ自身が感動しなきゃいかん。そのためには学びを止めるな。」とすべては子どもたちの笑顔のためにとを大会テーマに、青森県青森市、平内町の6会場で東北ブロック研究大会が開催されました。

岩手県からもリモート参加を含めて106名が参加し、多くの学びとたくさん仲間づくりの2日間となりました。大会1日目は、基調講演・パネルディスカッションを中心とした6つの分科会での学びの場となりました。またこの日の夜に、希望者を対象として岩手県からの参加者の夕食会を兼ねた「情報交換懇親会」を開催し、楽しい雰囲気の中、市町村を越えてのたくさんの仲間づくりの場となりました。

大会2日目の全体会では、東北ブロックPTA協議会長表彰に引き続き、記念討論会が行われ、PTA活動の現状やこれからのあり方を参加者みんなで考える時間となりました。

来年度の東北ブロック研究大会は、令和7年9月13日（土）・14日（日）に宮城県仙台市で行われます。

今回の大会の様子を2回に分けて報告します。

私たちの地域は少子化による部活動の地域移行や学校統合が進められてきていると思います。様々な課題があり難しい問題だと感じ、その中で第4分科会「マルチスポーツの可能性と運動部活動地域移行について」に参加してきました。そこで行政・学校がスポーツ少年団やクラブチームに丸投げするのではなく各自

連携して進めていくことが必要になるとのことでした。行政は予算や窓口、公民館など多方面への連携、学校は場所の提供や部活動に熱心な先生への理解、スポ少やクラブでは日中の指導者や資格を有した指導者の確保など各方面が連携し、地域の新しいコミュニティにしていかなければ永続的に部活動というものが

存続できなくなる可能性があるというものでした。子供たちが参加したい部活動というものだけが続けられる環境を学校だけではなく地域全体で考え連携していければ、時代に沿い形を変えながら存続していけるのではないかと感じることができました。

（久慈中・野場貴行 県P連副会長）



各分科会に分かれてはじまった第56回日本PTA東北ブロック研究大会。私は第5分科会『学校統廃合』に参加いたしました。

学校は集団活動を学ぶ場であるという大前提がある一方で、人口減少時代では学校の統廃合は避けられない部分もあることは何となく分かっています。しかし、実際に統廃合を経験した方から心理的なサポートの話を中心に実体験を話していただきました。

どうしても統合するとすると、ポジティブ面の押し出しを強くしてしまいがちにはなりますが、ネガティブ面のフォローこそ真摯に向き合っていないといけない事を感じました。学校に通う当事者の生徒だけでなく、保護者にも必要な事で丁寧に合意形成をしていくべきだと言っていました。

中には40年近くも統廃合の話し合いをしている学校がある事には驚きましたし、いくら距離的に近くても学校の風土や文化が異なると難しいのだなと知ることが出来ました。2日目の全体会では、パネル

ディスカッションで「PTAのネガティブ事」を挙げてもらうなど、実際に私自身がPTAに携わっていて感じている疑問など話題になっており、登壇する立場の人であっても自分と同じような課題感を持つているのだと非常に興味深く聞くことが出来ました。

様々な考えに触れることで自分自身を振り返る事が出来ますし、PTAという共通のキーワードで集まった仲間とのネットワークが出来た事が一番の収穫だと感じています。今後は自身の生活に落とし込み、前向きに活動していきたいと思えます。(小本小・金澤辰則 県P連副会長)

